

レポーター：学芸員の山口さんです。山口さんよろしく申し上げます。

学芸員：よろしくお願い致します。

レポーター：こちらの作品について教えてください。

学芸員：はい。まず、作者のことをちょっとお話しようと思います。サルヴァドール・ダリという画家ですね。スペインの出身で、あの皆さん教科書なんかで、時計がこうどろっと溶けた絵とかキリンが燃えている絵とか。人間のこう胸のところに引き出しがたくさんついている絵とか。ちょっと、なんか覚えているんじゃないか…

レポーター：覚えています。忘れてないですね。

学芸員：その絵を描いた人ですよ、同じ方なんです。シュルレアリズムといいまして、人間の無意識を描くっていう運動の。

レポーター：無意識。

学芸員：うん。人間普段考えていない意識の下にあるものをどうにかして抉り出して、それまでの伝統的な絵画とまったく違う絵を想像しようとした運動がヨーロッパに起こったんですけども、ダリはその中、そういった運動の中心人物の一人だった人なんです。割と迫真的な描写で現実にはありえないような絵を描くってことを得意にした人なんです。

レポーター：すべて浮いているような感じですよ。後ろの島も。

学芸員：ええ。これは題名とも絡むんですけど、ポルト・リガトっていうのはダリが奥さんのガラと一緒に住んだ小さな港街なんです、スペインにある。その風景をバックにして、ちょうど祭壇画のような、キリスト教の祭壇画のような絵が描かれています。だけど、すごく不思議なのは、その全部ふわっと浮いてるんです。後ろの島も浮いてるし、祭壇も浮いてるし、しかもこう途中で分裂してしまってる。

レポーター：何か不思議な感覚です。

学芸員：そうそう、浮遊感がすごく漂うような不安定な感じがしますよね。ダリはシュルレアリズムという絵画の革新の運動にかかわった人ではあったんですけども、この作品が描かれたのは 1950 年で、まあ戦後になりますけども、戦後はですね、ちょっとそういう前衛運動から離れて、伝統的な絵画の方によっていくんです。要するに宗教を主題とした、絵を描こうとするんですけども、単に宗教に戻るんじゃないで、その当時の物理学に非常に興味を覚えていたんです。そのきっかけが実は広島への原爆投下だったということ。原爆にそのなんていうか感心をよせた。決して、反戦、あるいはそのもつという交戦的な、そういう意味じゃなくて、純粹に科学に興味を持ってそういったこの物理学のこの核分裂ですね、核分裂を絵の中に取り入れて、それと宗教的な絵をまあ融合しようとした、そういった絵ですね。

レポーター：真ん中のマリア様ですか、お腹のところがぽっかり。

学芸員：ええ、ぽっかり空いていますよね。すごく不思議な、人間も分裂しようとして

いるのかなと感じもするんですけども、今その真ん中のそのマリア様っていう風にい
われましたけど、実はマリアのモデルになっているのがダリの奥さんだったガラとい
う女性ですね。

レポーター：奥様をモデルとしてですか。

学芸員：そうです。マリアを要するに奥様をモデルにして描いたっていうと、それだけ
奥様を愛していたんですね。という風にまあとれるんですけども、一方、キリスト教
の伝統からすると、そのマリア様を自分の奥さんにしちゃうっていうのは、実は非常
に冒瀆的なことなんですね。あのダリっていうのは、信仰が厚いんじゃないかってい
う一方で、非常に宗教というものに対して挑戦をした人なんじゃないのかなっという
風な解釈ができると思います。

レポーター：一つ一ついろいろなものがすごく不思議です。下に魚がいたりだとか、隣
にはバラの花があったりだとか。

学芸員：そうです。これ実をいうとですね、いろんな過去の西洋美術からの引用が散り
ばめられていますね。カーテンは実はフェルメールの絵からきてるし、卵と貝があっ
てピエロ・デラ・フランチェスカというイタリアの画家の、ルネサンス期の画家です
けども、そこから引用されてて、他にもいろんなモチーフがあるんですけども、全体
としてちょっとはつきりしていないんですよ。これが何の意味を表すのかっていう
のはちょっとすぐにはわからなくて、全体としてのそのこう一つのカチッとした意味
っていうのはなかなか導きにくいんですけども。まあ、全体としていえるのは、新
しい宗教絵画っていうものをダリが創造しようとしたっていうことともう一つは画
面大きいですよ。非常に。

レポーター：すごくびっくりしました。

学芸員：ダリの今後半、戦後の作品にですね、今、欧米の研究者の間で注目が集まっ
てるんですけども、その出発点となったと。この作品が。あの、だから、ダリの回顧展
をやろうとするとこの作品は今欠かせない作品になってきています。

レポーター：はあー。

学芸員：ここ十年くらいですね、イタリアとか、ドイツとか、アメリカでダリの回顧展
が実は開かれてるんですけども。

レポーター：はい。

学芸員：そのすべてにこれ貸し出してるんですよ。

レポーター：ほんとですか。この作品をここ福岡市美術館で見れるなんて本当に貴重な
ことですよ。

学芸員：そうですね。できるかぎりいつでも見れるようにしております。

レポーター：よろしくお願い致します。皆さん、是非足を運んでみてください。